



平和記念像に向かって（9/30 長崎平和公園で）



九十九島の遊覧船を前に記念撮影（9/28 西海パールシーリゾート）



土石流災害などの説明を受ける参加者（9/29 土石流被災家屋保存公園）

「いろんなところに出かけたい」「見聞を広げたい」そう思っている人も障害があるために、なかなか実現することができない方々の夢を叶えるため、6年ぶり5回目となる「夢・おおぞら事業」を行いました。

今回は飛行機とバスを利用して、9月28～30日の2泊3日で長崎県を訪れました。参加した48人は、九十九島で遊覧船に乗ったり、雲仙岳災害記念館「かまだすドーム」のドーム型スクリーンで火砕流・土石流を疑似体験したり、長崎平和公園や原爆資料館を見学したりと盛りだくさんのメニューをみんなで楽しみました。夕食時には食事をしながら長崎の夜景を眺め、カラオケで参加者同士の親睦を深めるなど貴重な3日間を過ごしました。

行程	
■1日目：9/28(日)	下妻 — 羽田空港 — 長崎空港 — 西海パールシーリゾート（九十九島遊覧船） — 長崎市内（泊）
■2日目：9/29(月)	ホテル — 島原城（車窓） — 土石流被災家屋保存公園（見学） — 雲仙岳災害記念館（見学） — 長崎市内（泊）
■3日目：9/30(火)	ホテル — 長崎平和公園（見学） — 原爆資料館（見学） — 長崎空港 — 羽田空港 — 下妻

# 「夢・おおぞら事業」

## 飛行機で長崎に行ってきた



参加者の声

「夢・おおぞら」に参加して

永瀬 正美（北大室）

去る9月28日からの三日間、「夢・おおぞら事業」に参加して来ました。長崎県内の三つの市を巡り、歴史的に忘れ難い出来事、悲劇の地や絶景ポイントなどを見て来ました。午前6時に参加者48名が下妻市役所を出発。羽田空港から長崎空港まで機内からの眺めは素晴らしい。富士山上空付近を通過の際には、火口もはっきりと見え、また反対側の窓からは折しも前日に噴火し、噴煙を上げる御嶽山も見えました。

長崎到着後、初日の観光は佐世保市の九十九島遊覧船のひとつ。50分間の周遊の間には心地よい海風を受け、心も和みました。

二日目は、平成3年の噴火による火砕流で多くの犠牲者を出し、土石流で埋まったまま永久保存されている雲仙市の民家などを見学。この日の夕方からは、参加者の親睦を深める懇親会が開かれ、会場の眼下には世界新三大夜景にも認定された絶景が広がり、私たちが歓迎するがごとく、打ち上げられた花火は湾を染めました。1000万ドルの長崎の夜景を満喫しました。

最終日は、長崎市で原爆資料館の見学。平和記念像の前での記念撮影後、資料館へ。館内には被災直後の惨状が写真や遺品の展示などで再現されていました。昼食はチャンポン発祥の店での血うとんやチャンポンを含む中華料理の数々を堪能し、長崎空港へと向かい、午後8時に下妻市役所に到着しました。

この事業は昨年10月に実行委員会を立ち上げ、以後6回の委員会でも綿密に計画を練り上げ、実行に至りました。この中で一番心配されたのが台風などによる悪天候。それが事業進行中は、最高の天気にも恵まれ、この上ない「夢・おおぞら」となりました。

三日間、無事行程を終えるまでお世話になりました事務局スタッフ、ボランティアの皆さん本当にありがとうございました。

有料広告欄

安心・安全なまちづくり

## 災害時に備え「下妻市防災訓練」を実施

茨城県南西部を震源とする大型の直下型地震を想定した「平成26年度下妻市防災訓練」を10月5日、千代川運動公園で実施しました。台風の影響で大雨の中での訓練となりましたが、地域住民、消防、警察、自衛隊、災害時応援協定締結企業や市職員など関係者約500人が参加し、パケツリレーでの消火活動や倒壊家屋からの被災者救出などを実践しました。また、災害時の相互支援協定を締結している浦安市からは中村副市長の特別参加がありました。

会場内の展示・体験コーナーでは、応援協定締結企業等による災害時に役立つ商品や非常食の試食などが提供されました。水を入れるだけで食べられる非常食の五目ごはんを試食した60代の女性からは「想像以上においしい。これなら避難した時の食事も大丈夫。便利なものが出ていますが、普段から準備しておくことが肝心ですね」と話が聞けました。



地域の団結力でパケツリレー消火を実践する参加者たち

支援体制の確立

## 下妻市歯科医師会と災害時における歯科医療救護の協定締結

市と下妻市歯科医師会は10月15日、災害時における歯科医療救護の協定を締結しました。

協定の内容は、災害時に歯科医師会会員の市内16人の歯科医師により、①歯科医療救護チーム②口腔ケアチーム③個人識別（身元確認）チームの3つの歯科医療チームが必要に応じて編成され、各避難所などに派遣されるものです。

協定書を取り交わした稲葉市長は「避難所における歯科医療救護や口腔ケアは、身体・生命に関わる大変重要な処置であり、今回の協定締結で避難者に係る課題が大きく改善されることを大変心強く感じています」とあいさつ。歯科医師会の石濱寛隆会長は「いつ、どのような災害が起きても対処できるようにトレーニングしていきます。避難所では口腔ケアがあるそかになりがちで、口の中が不衛生になることで細菌が唾液や胃液と共に肺に流れ込んで生じる誤嚥性肺炎が、特に高齢者に増えています。避難所で口腔ケアの仕方や啓蒙も必要となり、協力は惜しみなくしていきたい」と力強く抱負を語りました。



協定書に調印、取り交わした石濱会長(右)と稲葉市長(左)

安心・安全なまちづくり

## 下妻中学校建設委員会が「基本構想・基本計画」を答申

下妻中学校建設委員会は10月1日、平成30年度の春に開校を目指す下妻中学校の改築にかかる「基本構想・基本計画」を稲葉市長に答申しました。

同委員会は、市議会議員、学校関係者、市民の代表者および市職員から委嘱された委員17人で構成され、今年5月から4回の会議を開催。新校舎建設の指針となる「基本構想・基本計画」に下妻中学校の生徒や保護者、現場で働く教職員の意見を取り入れるため、新校舎に関するアンケート調査を実施し、調査結果を考慮した上で学校づくりの基本的な方針をまとめました。

答申では、建設計画に重要な建設位置を現地建替えとし、新校舎が完成するまでは既存校舎を利用するなど、改築工事中の学校運営に支障をきたさないよう配慮するものとしています。また、耐震性が確保されている体育館と武道場は、既存施設を利用することで有効活用を図る計画となっています。

今後は、答申された「基本構想・基本計画」をもとに、平成26年度中に基本設計をまとめ、平成27年度はより詳細な実施設計を委託。平成28年度から建設工事に着手できるよう事務等が進められる予定です。



原部司委員長(左)から稲葉市長(右)に答申書が手渡されました

## 温かい善意ありがとうございます

### ■鳩貝 聖さんより200万円寄附

10月23日、鳩貝里さん（前河原）より100万円を「市の介護に関することに役立ててほしい」と寄附いただきました。

また、同日、同氏より下妻市社会福祉協議会にも100万円を「福祉に役立ててほしい」と寄附がありました。

有料広告欄